

税の需要とは

三条市立第三中学校 三年 佐藤 唯衣
さとう ゆい

最近は何が上がり巷では、増税などという言葉が飛び交っています。ちなみに私は税について全くわかっていませんでした。税金の行方はどこになるのか。なぜ、税は存在するのか、そもそも、税はいつからあったのかという疑問でいっぱいでした。なので、私は税の存在を調べようと思いました。

そもそも、税はいつからあったのか。始まったのは、弥生時代から。そこからなんやかんやあり、税の種類もだんだん増え、現状に至る、ということになります。

次に、なぜ税は存在するのか。まず、国の財政について。国の歳入の約六十パーセントは租税などで賄われています。しかし、残りのほとんどは公債金収入に依存しているそうです。現状、この公債金に依存するのは未来のためにどうなのかというのがこの国の大きな問題になっています。確かに、過去にあったものが今もあってこれからも苦しみ続けるのは、国民にとって辛いことだと思えます。そして、国の予算は国民がより豊かに過ごせるようにするために支出の仕方を国会で考えているそうです。まあ、増税するのは納得できませんけど。そして、県の財政ですが、県の財政は国からのお金に支えられているそうです。もちろん国だけが一方的ではなく、県や地方公共団体などが協力して今の日本

は確立しています。

最後に税の行方について。主に使われるのは、私たちが今、通っている学校での教育。私たちが平等に教育を受けられるように教育費の多くに税が使われているそう。確かに教科書に「皆さんの周りの大人たちがく」みたいなことが書かれていることをよく見ます。本当にありがとうございます。さらに、机の購入、校舎の建設、修理も大半が税によって行われているそうです。そう考えると税を払ってくれる人ありがとうございます。これから自分も払う立場になると思いますが。教育だけではなく、新潟などの豪雪地帯では除雪の費用、健康に過ごせるための医療介護も税によって支えられているそうです。それだけではなく他にもたくさんある。なので、周りを見渡すと、税によって支えられているものはたくさんあるということがわかりました。税はすぐ隣りにある、そう感じました。

ちなみに、税はどんなところにかかっているのか。まず、働くことに税はかかっている。さらに、買い物、家、自動車など五十種類あるらしい。

このことを通して、税は、私たちが快適に過ごすため、日本の今、そして未来を支えるため、つまり、日本の未来は私たちににかかっているらしいです。自分もその期待に応えるため、日本の未来を助けるために今できることをやっていきたいと思えます。そもそも税の言葉すらわかっていなかった私なので、税を知ることがはじめの一歩だと思いました。